

5月11日(月)

どなたの元へ

聖書朗読 ヨハネ 6：60～71

シモン・ペテロが答えた。「主よ。私たちがだれのところに行きましょう。あなたは、永遠のいのちのことばを持っておられます。」 ヨハネ 6：68

イエス様は、単なる議論好きとして表現される存在ではありませんでした。独特のたとえを用いながら、当時の宗教指導者たちと激しく議論を交わされました。イエス様の用いられた独特のたとえは、彼らには恐らく理解できなかったと思われます。

ヨハネ6章でイエス様はご自身を「いのちのパン」と表現され、神様が荒野で民にお与えになったマナとご自身とを比べられ、ご自身の肉を食べ血を飲むすべての者に永遠の命をお与えになるため天から下って来られたと言っておられます。イエス様の弟子たちでさえ、これを「ひどいことば」とする者があり、多くの者がイエス様の元を離れ去って行きました。

この時イエス様が12弟子に、彼らも離れたいと思わないであろうかと尋ねると、ペテロは「主よ。私たちがだれのところに行きましょう。」と答えます。確かにその通り、イエス様以外に私たちの行くところはありません。イエス様がおっしゃったように、イエス様が天から来られたのでなければ、私たちには希望も全くありません。神様の恵み、ご慈愛そして赦しに与る道は、自己啓発に関する本やそうしたことを促すリーダー的存在、あるいは高潔な働きなどいかなるものによっても、イエス様による道の他にはありません。イエス・キリストにあって、私たちが召されたその働きにふさわしい生き方をすることによって、神様の恵み、ご慈愛、赦しにお応えしていきましょう。

讃美歌 332

祈り 親愛なる主よ。私たちに注いでくださるあなた様の大きい御愛と、私たちの罪の赦しの為、あなた様のひとり子がこの世に来られ死んでくださったことを感謝します。イエス様が私たちの身代わりとなって苦しみを受けてくださり、そして、恵みと慈しみと赦しをお与えくださっていることを感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

J・リチャード・トンブソン
テネシー州 ナッシュビル

今日の力

2020年5月11日～5月17日

翻訳 藤岡 伸子

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

5月12日(火)

自由の恵み

聖書朗読 ヨハネ 8:31~36

ですから、もし子があなたがたを自由にするなら、あなたがたはほんとうに自由なのです。
ヨハネ 8:36

モアハウス大学の卒業式で、億万長者ロバート・F・スミス氏が卒業生たちへの訓示を述べた際、学生たちの奨学金を完済すると言ったのですが、その事に対しある学生がとても感謝して、「後宇宙返りが出来たらしたいぐらいだ」と喜んで叫んだそうです。この大学の学長はこの事を「解放の恵みだ」と称し、スミス氏はこの対象となる学生たちに、「この恩返しは他の人にするように」と促し、さらに「世に出て行動しなさい。借金のことはもう心配する必要はありません。」と続けました。

神様の贖いの恵みは「解放の恵み」です。イエス様は、私たちを、罪に対する罰、死の力、地獄で罰せられることから私たちを解放するためにこの世に降りて来てくださいました。主はこう言っておられます。「あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」(32節)

主が私たちを罪という足かせから解放してくださったということを知った今、惜しみなく与え、恐れることなく生き、そして、無条件に愛する者とされています。私たちは過去に犯した自分の過ちや失敗の事で思い煩う必要はありません。そうした事からの解放という神様からの恵みがあるのですから。

讃美歌 309

祈り 父なる神様。あなた様がイエス様を通してお与えくださった罪からの解放という恵みのゆえに、私たちは真に自由であるという事をより深く理解することが出来るよう助けてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

エドワード・J・ロビンソン

テキサス州 タイラー

5月13日(水)

イエス様に従う

聖書朗読 ヨハネ 9:1~12

「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」
ルカ 9:23

イエス様によって癒されたあの盲人は、イエス様に従うことで大きな犠牲を払うこととなりました。癒された後、彼は、周囲の人々からは攻撃的な態度で接せられ、両親には捨てられ、祭司(ラビ)達からは咎められ、会堂(シナゴグ)からは追い出されることとなったのです(ヨハネは「追放された」と記しています)。イエス様とお会いしたその日は、彼にとって苦難の終わりではなく、真の苦しみの始まりとなったのです。

イエス様に従うこと、それは、私たちがこの世とぶつかり合う経験をすることを意味するのです。そうした衝突は、親子間でも起こることです。例えば、親は子供たちに従わせようとする決まり事や身だしなみ、活動、接する音楽や映画、果たすべき責任などがありますが、それらを巡ってしばしば衝突が起こります。ま

5月14日(木)は、子供の方が、不道徳あるいは無責任な親の行動に従わざるを得ない場合もあります。私たちは皆、現代の倫理観や行動規範に則って行動しています。

この盲人にとって、イエス様と関わったことは、人生の苦しみから彼を救ってくれるものではありませんでした。彼の目が真の意味で開かれ信仰者となるために、周囲との衝突は不可欠だったのです。このことは、私たちにも言える事でしょう。

讃美歌 338

祈り 天のお父様。ご聖霊によって私たちを強め、あなた様に従うゆえに立ち向かわなければならぬ困難を、喜んで受け入れることが出来るようにしてください。どうか、この世の規範に従わせようとする圧力に屈することなく、あなた様が召してくださった道を、感謝を持って謙虚に歩むことが出来るよう助けてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

デイブ・ブランド

テネシー州メンフィス

5月14日(木)

心 で 聴 く

聖書朗読 ヨハネ 9:24~34

もうお話したのですが、あなたがたは聞いてくれませんでした。なぜもう一度聞こうとするのです。あなたがたも、あの方の弟子になりたいのですか。

ヨハネ 9:27

視覚、聴覚ともに障害を持っていたヘレン・ケラー。彼女は聡明ではあったのですが、手に負えない子どもでした。彼女の教師として、パーキンス盲学校の卒業生であるアン・サリバンがやって来ましたが、このアン・サリバンは、ヘレンの心を開く鍵は、大きな愛をもって彼女を包みつつ、従順であることを求める事にあると信じていました。映画「奇跡の人」には、ヘレンが、「ウォーター」という言葉と実際に彼女の手に注がれている水とを結び付けてことばを発する場面が描かれています。彼女はことばと実際の物を結び付けることで、この世にある無数のチャンスにその心が開かれたのです。ヘレンは、実際の耳ではなく、心の耳で聴くようになったのです。彼女は盲目でしたが、読み、書き、そして話す才能は類まれなもので、さらにそれらを学ぼうとする貪欲な姿勢は驚くほどのものでした。こうした才能と熱心な姿勢によって、彼女は世に知られるようになったのです。

ヨハネ9章で、イエス様によって癒された盲人とその両親を、ユダヤの宗教指導者たちが問い詰めています。それ以前に、彼らは、イエスをキリストであると告白する者があれば、その者を会堂から追放すると決めていました(22節)。予め定めた概念に固執していたために、彼らは事実に基づく証拠に心を閉ざし、神の御子が彼らの中におられるということを認めようとはしませんでした。そして盲人に起こった奇跡を受け入れることが出来ず、彼らは素晴らしい好機を逃すこととなったのです。私たちも時に、既に答えを決めているがために、心の耳で聴こうとしないことがあります。イエス様はそのような私たちの心を開いてくださいます。

讃美歌 531

祈り 親愛なる神様。私たちが喜んであなた様のみことばに心を開き、それを心に留め、与えられた機会を用いてすべての業においてあなた様に仕えることが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

コニー・シンプキンズ・トーマス
ケンタッキー州 マウント・ワシントン

5月15日(金)

後悔 と 約束

聖書朗読 ヨハネ 11:17~27

わたしは、よみがえりです。いのちです。

ヨハネ 11:25

「もっと早く彼に声を掛けていたら…」、「私が約束を守ってさえいれば…」、「彼女が頼んだことを私がしてさえいれば…」のような、「もし、こうしていたら…」といった自責の念や後悔を表す表現は、様々なことばの中で最も悲しい思いが込められたものではないでしょうか。

マルタは、「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」(21節)とイエス様に言っています。イエス様は、彼女のことばとどのように思ったマルタをお叱りになることはせず、それどころか、「あなたの兄弟はよみがえります。」(23節)とマルタに約束をしてくださいました。これは、イエス様が「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」(25節)と言われたように、すべての信仰者に約束されたものです。イエス様とともにあれば、「こう出来たかもしれないのに」と思うことも「まだ何か出来る」というものへと変えられます。

私たちの人生に、後悔や迷いの無い歩みはありません。誰でも「こうでありさえすれば…」と思うことがあります。けれども後悔をすればするほど、過去の記憶は苦々しいものとなってしまいます。イエス様はそうした状況から私たちを救い、永遠にご臨在なさる主のみもとへ導いてくださいます。「信じなさい。私を信じて、生きなさい。」とイエス様は言っておられます。

讃美歌 399

祈り 父よ。不完全な子である私たちは、あなた様のみまえに、失望と傷ついた心と罪を差し出します。あなた様の御子のご契約に安心して憩わせてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ポール・L・ワトソン
ノースカロライナ州 ダーハム

5月16日(土)

永遠の満たし

聖書朗読 ヨハネ 6:60~71

シモン・ペテロが答えた。「主よ。私たちがだれのところに行きましょう。あなたは、永遠のいのちのことばを持っておられます。」 ヨハネ 6:68

先日、私は夫とあの間欠泉で有名なイエローストーン国立公園へ旅行に行きました。オールドフェイスフルと名付けられたその間欠泉は、この公園の地熱の特性により、必ず水が噴き出ることが期待できます。私たちもその間欠泉が噴き出るのを期待しながら待っていました。予告通り、待ち始めてから10分程すると、水が勢いよく噴き出し180フィート(約540m)ほどの高さにまで達しました。この瞬間そこに居た多くの観光客は皆はっと息のみ、自然と拍手が沸き起こりました。

地殻の最も深いところから自然に流れ出て来る水が地上に噴き出る様子を見て、私は、私たちが味わうことの出来る御霊の生ける水を改めて思わされました。私たちがイエス様の忠実なご契約を受け入れることを選ぶなら、イエス様がおっしゃるように「その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる」(ヨハネ7:38)のです。イエス様は井戸で会ったサマリヤの女性に、水について、「わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命への水が湧き出ます。」(ヨハネ4:13~14)と言われ、これまで彼女の考えたこともない新たな水について教えておられます。

間欠泉は暫くするとまた止まってしまうますが、私たちのいのちの御霊の水は、私たちが、「バプテスマによってキリストとともに葬られる」(ローマ6:4)ことを受け入れたなら、絶えまなく永遠に流れ続けることを確信できるものです。私たちは皆、この生ける水の恵みを受け取ることを選び取ることが出来るよう願ってきましょう。

讃美歌 217

祈り 親愛なるお父様。私たちの魂を永遠に新たにしてくださるご聖霊をあなた様が約束してくださったことを感謝します。私たちが皆、あなた様の生けるいのちの水に立ち返ることができるようお導きください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

アン・スパイナー
メリーランド州 フレデリック

5月17日(日)

ひとりの人

聖書朗読 ヨハネ 11:45~53

ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。 ヨハネ 1:14

あるひとりの人。さびれた町の労働者階級の家生まれたその人は、漁師や取税人など様々な人々に日々教えを施すようになりました。その人は世の人々を驚かせる存在となりましたが、ただひとりの人だったのです。

このひとりのお方がエルサレムに入られると、人々はしゅろの木の枝を取って「ホサナ」と言って出迎え、町じゅうがこのひとりのお方のために大騒ぎとなりました。

カヤパは、ひとりの人が民の代わりに死ぬことで国民全体が減びない方が得策ではないかと言いますが、この時カヤパが言ったことばは自分から出たものではなく、真実を預言して語られたものだったのです。このひとりのお方の犠牲によって、この全世界が変えられ、私たちが永遠のいのちを持つことが出来るよう大きく変えられました。それは、このお方が単なるひとりの人ではなかったからです。このお方は、ことばが肉となったお方、神の御子でした。このひとりのお方こそ、あらゆる人々のいのちを永遠なものへと変えてくださったお方です。

讃美歌 130

祈り 親愛なる主よ。この世にあなた様の御子をお送りくださったことを感謝します。イエス様によって私たちのいのちが永遠なものへと変えられ、あなた様と永遠におらせてくださる約束をしてくださったことを感謝します。この福音を他の人々に分かち合う機会を私たちにお与えくださいますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

アンドリュー・フィリップス
テネシー州 コロンビア